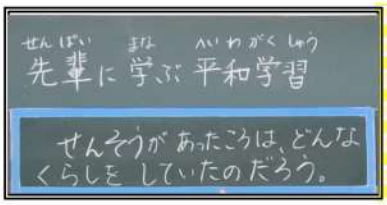

上西だより

～上西校区集落支援員だより～

西之表市地域支援課
上西集落支援員
馬場 信一　編集
連絡先090－9579-3953
上西校区長責任発行

今月は広島と長崎に原子爆弾の投下後に太平洋戦争が終結した祈りの月、八月です。
小学生のころに集団学童疎開を経験した日高守さんと大﨑カズ子さんに、当時の生活の様子を教室で語ってもらいました。
上西小学校の子どもたちは真剣な態度で話に聞き入っていました。

日高 守さん（横山）
小学2年生のとき疎開
『ふるさと上西今昔 伊勢暦』 P72参照

７月１１日（土）３・４年教室で
保護者や地域の方も参観

大﨑カズ子さん（大﨑）
小学6年生のとき疎開
『ふるさと上西今昔 伊勢暦』 P77参照

○昔の校門はは階段だった。
（『伊勢暦』P116参照）

○校庭に大きな二本松があり、道路の手前は田んぼだった。冬はそこに氷がはった。

○兄と二人、まずは八坂神社に集合した。船は米軍の襲撃を時々受けて、なかなか出航しなかった。そのため中西公民館に戻り、３～４回目でようやく出航した。

○終戦までは受け入れ家庭の家で食事をしたり、一緒に働いたりした。
しかし終戦後はそこを出て、自分たちで宿舎を作った。貧しい食事で、バッタをつかまえて焼いて食べた。いつもひもじかった。

集団学童疎開の道のり

当時２年生～６年生上西小児童155名と引率の大人数名が種子島を離れた。

○船で鹿児島に着いたら、米軍の爆撃機Ｂ29が投下した時限式爆弾が、遅れてあちこちで爆発したというので、地面に穴があいていた。貨車にも穴があいたのを見た。

○父が消防団だった。空襲で焼けた死体が海岸にたくさん押し寄せていたのを、父たちが一人ひとり並べていた。

○終戦後、アメリカ人を見たのは初めてだったので、友だちと二人で山に逃げた。

○娘と疎開から80年ぶりに平出水渕辺に墓参りに行った。あのときに受け入れてもらった家はもうなかった。心の中で「お世話になりました」とお礼を伝えました。

写真協力：上西小学校

子どもたちからの質問やお礼の言葉のあと、保護者とも昔の話が弾みました。